

# 志小安全・防災だより



H30.12.4 NO.33  
安全・防災担当：早坂 潤

## 「南三陸教育」を通して私たちも一緒に学びました！

先月27日の、南三陸教育（南三陸を愛する子どもたちを育てる教育）の公開研究会に向け、6年生の防災グループ6名の子どもたちは、昭和12年5月4日に志津川の中心部で発生した大火のことを一部例に出して発表していました。この大火は、当時の新聞に全国版で載るくらい大きな出来事でしたが、この後、チリ地震津波の発生なく、あまり記憶に残らないものとなったようです。6年生が調べていることをきっかけに、私も調べてみると、このような新聞記事が残っていました。また、総合的な学習の時間に5年生外部講師として来ていただいていた、工藤真弓さんに話を伺ってみると、いろいろと調べてくださり、当時のまちの様子や火災がどのように広がっていったのかを教えてくださいました。当時の消防設備が十分でなかったこと、災害発生時を考えた道路が整備されていなかったことも原因だったようです。子どもたちの追究より私もたくさん学ばせてもらいました。



当時の河北新聞記事です。

## 「雪むし」がたくさん飛び始めると本格的な冬の到来です！

6年生が「先生、雪むしを捕まえたよ！」と言って私に小さな羽根アリのような虫を見せてくれました。そのときは、この虫よりも、こんな小さな虫を優しく手で包んで見せてくれる6年生の姿に感激し、虫にはあまり気持ちが向きませんでした。それから4、5日たち、学校の周りを歩いていたら、白くて雪のようにいくつも飛んでいるものに目がきました。「なるほど、これが雪むしなんだ。」とあ那时的6年生の女の子たちが言っていたことを思い出しました。くろしお見守り隊の方々に、雪むしの話をしたら、「雪ん子」とも言うし、我々が子どもの頃は、「雪ばっば」とも言ったと教えていただきました。この虫が飛び始めると、まもなく雪が降り出すそうです。栗駒の方は、つい最近まで紅葉を見に来た観光客でにぎわっていたところも雪のために道が閉鎖されたとのことでした。12月に入り、冬休みまであと2週間です。事故やけがに遭うことなく楽しい冬休みを迎えられるように、一人一人にしっかりと目を配っていきます。



暖かい日に飛ぶそうです。

これが「雪むし」または「雪っこ」と言われている虫です。胸のところに白い粉のようなものが付いて飛んだときに雪のように見えます。この白い粉のようなものは何なのでしょう？